

奄美地域におけるエダマメの畝連続栽培による省力低コスト栽培体系

畝連続栽培体系は、早熟栽培の施肥作畝作業を省略可能で、慣行体系と同等の収量で農業所得が30%向上

背景・目的

- ・奄美地域において、高収益が期待できるエダマメ栽培が増加
- ・抑制栽培終了後に早熟栽培を行う場合、圃場準備期間が短く、施肥作畝、播種作業が計画通りに進まない
- ・エダマメの畝連続栽培における施肥法や省力播種法を検討し、省力低コスト体系を確立

成果の内容

- ・畝連続栽培は早熟栽培の施肥作畝作業が不要(図1)
- ・5条千鳥2粒播種の収量は、慣行の5条1粒播種と同等、播種作業時間は半減され省力的(図2, データ略)
- ・畝連続栽培の収量は抑制栽培時に2作分を全量基肥することで、畝更新栽培と同等、速効性肥料, 緩効性肥料による収量差はなく、肥料費は速効性が少ない(データ略)
- ・畝連続栽培の農業所得は慣行栽培と比較して30%向上(図3)

栽培方法	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
畝連続栽培 (新体系)	×	○	○	抑制	○	○			早熟
畝更新栽培 (慣行体系)	×	○	○	抑制	×	○	○		早熟

×: 施肥作畝 ○: 播種 □: 収穫

図1 畝連続栽培のイメージ

注1) ×: 施肥作畝, ○: 播種期, □: 収穫期
2) 品種: サヤムスメ(雪印種苗)

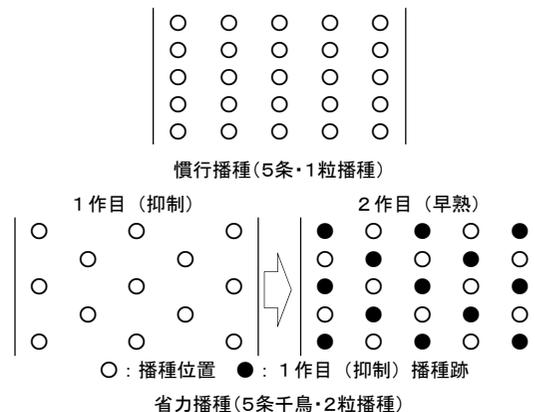


図2 播種法のイメージ

注) 慣行播種(5条1粒播種): 畝幅150cm, 株間15cm, 1粒播種(22,222株/10a)
省力播種(5条千鳥2粒播種): 畝幅150cm, 株間30cm, 2粒播種(22,222株/10a)

期待される効果

○エダマメ生産者の農業所得向上

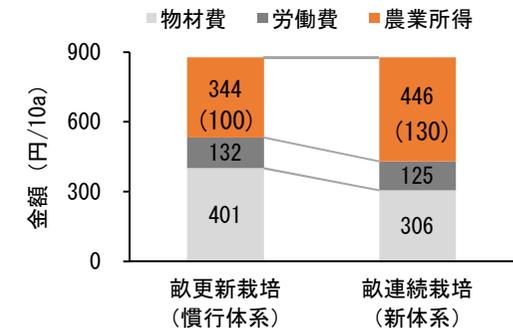


図3 収益試算

○施肥作畝及び播種作業の省力化

○普及対象・範囲

奄美地域のエダマメ生産者

鹿児島県農業開発総合センター徳之島支場
園芸土壌研究室

公募(委託プロジェクト研究)

「南西諸島の気候風土に適した高収益品目の検討
及び栽培技術体系の確立」